

最新事情

秘書検定で社会人としての振る舞いを学び
インターンシップに生かす

中村学園大学短期大学部 キャリア開発学科

(福岡県福岡市)

中村学園大学短期大学部キャリア開発学科は、平成19年に前身の家政経済科より改組し誕生した学科である。創立時からの「しつけ」の伝統を受け継ぎ、秘書検定を基礎教育に取り入れてマナー教育を徹底しながら、地元企業でのインターンシップを活用している。さまざまな分野で活躍できる職業人を育成する同短大の取り組みについて伺った。

自らのキャリアについて 考え抜く2年間

地域の産業を担う職業人を、どのように育成するか。大学教育と社会の接続が課題となつている昨今、各大学では試行錯誤が続いているのが現状だ。

中村学園大学短期大学部キャリア開発学科には、現在2学年合わせて約300名の学生が在籍している。福岡県内を中心に近県から進学してきており、卒業後にしてもほとんどが福岡県で事務職や販売職、営業職などとして就職するという。

マナーの知識と技能を基礎に、社会で活躍できる職業人の育成に力を注ぐ同学科の教育につ



キャリア開発学科の岩田京子教授(右)と藤島淑恵准教授

いて、岩田京子教授は次のように説明する。

「短期大学部には他に食物栄養学科と幼児保育学科があります。両学科では、入学時点でこれらの専門職に焦点を合わせている学生がほとんど。一方、本学科では、社会に出て働くという希望は持っているものの、まだどのような業種・職種で働くかイメージできていない学生も多いのです。社会に出るに当たって必要なことを全て学び、自分のキャリアについて考える。これが本学科の目標です。特に就職活動が始まるまでの約1年間で、できるだけ具体的に仕事や働き方、そこで求められる力について理解できるようにカリキュラムを設定しています」。

柱となっているのは「ビジネス研究基礎キャリア形成演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」だ。ゲストスピーカーによる講演や先輩の就職活動体験談から履歴書・エントリーシートの書き方や業界・企業研究まで、自らのキャリアを切り開いていくための手札をそろえるのがこの科目である。



中村学園大学・中村学園大学短期大学部の学生が共に学ぶキャンパス

「簿記」「パソコン」などの資格取得に関して
は、課外の「キャリアサポート講座」で対策講
座を開講している。秘書検定もその一つ。全学
生が1年次の6月に2級を受験するのだが、4
月から2カ月半しかないため週2回、1回2コ
マ（1コマ90分）、座学を中心に短期集中で指
導している。

社会人としてのマナーについては、1年次前
学期の「オフィスマネジメント」の前半で、実
技を通して身に付ける。中心となるのはお茶出
し、電話応対、来客応対、訪問のマナー、名刺
交換など。秘書検定で学んだ知識と技能を、動
きで覚えるのである。

秘書検定の知識と技能が インターシシップを支える

このように、基礎的なマナー教育を急ぐのに
は訳がある。それは1年次の必修である「イン
ターシシップI」（夏季・春季）のためだ。

同科では、もともと希望者だけが参加して
いた10日間のインターシシップを、平成25年に
必修科目にした。実習先は担当教員のとつてで協
力を得た旅行会社、自動車学校、専門商社、広
告代理店など。体験できるのは主に事務職と販
売・営業職だ。全員一斉に実習するのは難しい
ため、学生の希望を元に夏季・春季に振り分け
ている。

秘書検定、「オフィスマネジメント」などのマ
ナー科目と、「インターシシップI」の事前・事



キャリア開発学科生の皆さん。
(前列左から)2年生の宮本あいみさん、柳田優希さん、
(後列左から)1年生の岩崎燈さん、大上美咲さん

後研修を担当する藤島淑恵准教授は、インター
シシップによる学生の変化についてこう話す。

『秘書検定対策講座』『オフィスマネジメント』
で学んでも、知識が言動につながっていない
こともあり。実習先で『できなかった』
と気付くと学習意欲が高まるため、夏季に参加
した学生は、後学期の授業でより積極的に学ぶ
ようになります。春季に実習をした学生は、直
後の就職活動に高いモチベーションを維持した
まま臨んでいるのが分かりますね』

インターシシップの事前研修は7回あり、朝
礼を想定した自己紹介、マナーの振り返り、業
界・企業の研究と発表、名刺交換、履歴書の添
削などを行う。インターシシップには目標を
持つて行くことが大切だと藤島先生は言う。

「同じ実習先でも、学生が感じ取れることはさま
ざま。何が得られるかは自分次第であり、その
ためにも目標が明確かどうかは非常に重要だと
考えています。また、学生は実際の業界や職種



春季に、自動車学校で実習を行った宮本さ
ん。「実習以前にこの自動車学校に通って
いたのですが、職員の方が感じよく、こ
んなところで働きたいと思っていました。
実習してみてその気持ちは一層強くなり
ました」。採用試験を経て、希望どおりこの自
動車学校への就職が決まった

をあまり知らないもので、こんな仕事もあるの
か、と目を開かれることもあるようです」。

インターシシップ後には、全員が自らの成果
をプレゼンテーションし、その中から選ばれた
10名が、「インターシシップグランプリ」でさ
らに磨きをかけて発表する。そこには企業の担
当者も招いており、出場した学生が誇らしく胸
を張る姿が見られるという。

学生自身は、インターシシップや同学科での
学びをどのように捉えているのだろうか。

夏季に実習を終え、記憶の新しい1年生は、
「電話応対が難しかった」と口をそろえる。

専門商社で実習を行った岩崎燈さんは「電
話応対では会社の名前が聞き取れなかったり、
『こう言われた』と内容を分かりやすく説明す
るのが難しかったです。事務の仕事だけでなく、
商談に同行して営業の仕事も体験すること
ができました。自分には、社内で気配りをする
事務職が向いているかな、と感じました」。

広告代理店で実習した大上美咲さんは「電話

最新事情 ④……………中村学園大学短期大学部キャリア開発学科



「インターンシップI事前研修」の様子。秘書検定や「オフィスマネジメント」で学んだあいさつや名刺交換も復習する。ここでしっかり体得して、インターンシップで実践するのが一つの目標だ

応対や来客応対をしました。お茶出しは、『オフィスマネジメント』で学んだことが役に立ちました。電話応対は『あつ、電話が鳴ってしまっただ』と焦ってしまおうとうまくできません。落ち着いて受け答えすることを心掛けました。繰り返し練習が大事だと思います。

2年生の柳田優希さんは夏季に、宮本あいみさんは春季に、自動車学校で実習を行った。同じ場所でも、感じ取ったものはそれぞれだ。

事務か接客か、就職は迷っていたという柳田さんは「居酒屋で接客のアルバイトをしているので、実習では事務も体験できたのがよかったです。気付いたのは、周りに心遣いができるのが自分の持ち味だということ。スケジュールの管理や書類をまとめるなどの事務の仕事でそれを生かしたいと思うようになりました。

一方、宮本さんは「受付を担当しましたが、事務の仕事も多かったです。人と話すのが苦手だったので、実習ではスタッフの方々と話



「インターンシップI事前研修」での企業研究。実習先についてグループごとに研究するが、視点はさまざま。概要だけでなく、社風や働き方、採用の条件、業界の動向など、工夫を凝らして模造紙一枚にまとめて発表。他のグループの発表も各自ノートにメモする

学外でのフィールドワークでさらなる積極性・主体性を

時間が毎日楽しみになっていきました。また受講生の方からの質問に自分で考えて答えられるようになり、『ありがとう』と言ってもらえたときはうれしかったです」と笑顔を見せる。

2年生の2人は、秘書検定・サービスマスター検定準1級やビジネス文書検定2級にも合格している。「資格取得が入学時の目標で、現在七つ合格。中村学園大の四年生と就職活動について話したとき『そんなにたくさん資格を持っていてすごい』と言われた」（柳田さん）、「短大生ということでもうしても自信が持てないでいたけれど、挑戦するたびに自信がついた」（宮本さん）と、真つすぐに目を見て話す姿勢に、充実した2年間が垣間見えた。

同学科では、今年度から、フィールドワーク分野の科目群を新たに開講した。これまで授業

の一端として行ってきたアクティブ・ラーニングを、より推進しようという試みだ。

その一つである「おもてなし研修」は、学生が福岡市内のボランティアガイドについて学び、自らもガイドの一人として観光案内を行うもの。1年生の岩崎さんは、インターンシップ後に「おもてなし研修」に参加している。「人と接するのが苦手。でも苦手意識を持ったままでは学生時代がもつたいたいと思つて」と話してくれた。コミュニケーションの取り方を考える上で、インターンシップの経験は糧になっているようだ。

「今の学生は真面目な反面、積極性や主体性に乏しい一面があります。教えた通りにするだけでなく、自ら動くことが大切なのです。加えて、これからは地域社会でどう生きるか、どうリーダーシップを発揮するかを考えていかなければなりません。学外でのアクティブ・ラーニングを通してぜひそれを学んでもらいたい。さまざまな人と触れ合いながら活動することで、自ら行動する積極性と地域貢献の意識を持つてくれたらと思つています」（岩田先生）。

伸びしろは間違いなくある。先生方は学生の姿勢に大いに期待を寄せている。



「おもてなし研修」でボランティアガイドに付いて案内をする岩崎さん。ガイドとしての独立立ちはこの冬以降。「にこやかな表情を心掛け、相手の興味をうまく聞き出しながら、分かりやすく説明できるようになりたいです」